



美しい郷へGO!!

第3号

平成20年6月20日発行

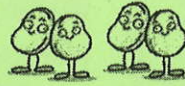
発行 白鷹町美しい郷づくり推進会議

環境ニュース部会

TEL 0238 (85) 6131

FAX 0238 (85) 5275

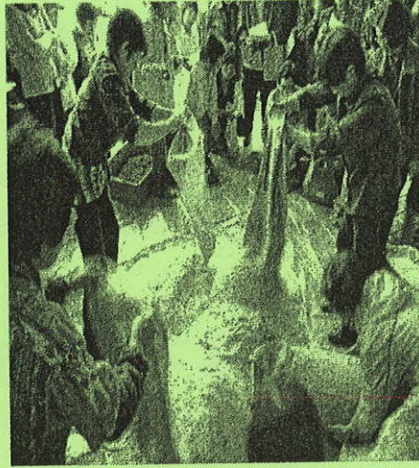
白鷹町ごみゼロの日 5/30



”EMボカシ”づくりに多数参加

家庭からでる生ごみを少しでも減らすために、EMを使って生ごみ堆肥をつくるための“EMボカシ”づくり【ごみゼロの日実行委員会主催】が5月31日(土)中央公民館で行なわれました。

雨模様にもかかわらず、80名近くの参加者があり、米ぬか・EM・糖蜜等を混ぜ合わせて約150キログラムの“EMボカシ”と米のとぎ汁発酵液の作り方を習いました。



ちょっと

お得な話

冷蔵庫編

暑くなると冷蔵庫の開閉が多くなるこの季節。「扉を5秒間開けっ放しにすると、冷蔵庫の冷気がすべて出てしまう」ということはご存じ？
もったいないですね！
電気代をムダにしないためにも、ちょっとした工夫で節約しましょう。

EMとは(Effective Microorganisms=有機微生物群)の略で自然界に存在する微生物のなかで人間に役立つ善玉菌だけを集めたエキスのこと

発酵液の希釈液で部屋の掃除をすると、お部屋がピカピカ!! 静電気が押さえられ、ほこりがつきにくくなるよ

米のとぎ汁発酵液をトイレや台所の排水口に流すといやな臭いやヌメリを押さえられるよ

ボカシで作った生ごみ堆肥を畑の土に混ぜると、土が肥えて美味しい野菜やきれいな花がいっぱい育つよ



- 各段に何が入っているかわかるよう整理整頓する。
- 詰め込み過ぎない
- 冷蔵庫の後・脇は隙間をあける。
- 入れ物は透明なものにする。
- クールカーテン(透明なビニールすだれのようなもの)を取り付ける。
- 買物リストをメモしておく。

エコでお茶しましょう

ごみゼロ実行委員と一緒に“EMボカシ”づくりをして1ヶ月。でき具合はいかがでしょう？ボカシや米のとぎ汁発酵液の使い方など、気軽にお茶しながらお話しませんか？ボカシづくりに参加できなかった方も一緒にどうぞ!!

飲み物を準備しておりますので、マイカップをご持参ください。

とき 7月6日(日)

午前10時～

ところ 中央公民館

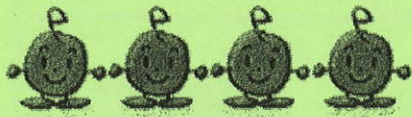
いこいの間

【エコキッズ がんばれ!!】

荒砥小 4 年生の取り組み

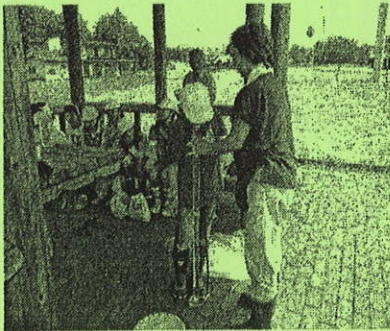
貝生川の健康診断

～身近な川をきれいに～

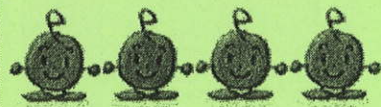


荒砥小4年生16名が環境を含めた「住みやすい町」について学習するため、町内貝生川の水質や生物などの調査を行いました。

「水質調査班」「生物探索班」「ごみ拾い班」に分かれ、空き缶や鉄くず・ごみを袋いっぱい回収したり、泳いでいる魚を確認したり、水の透明度を調べたりし、身近な川の様子を知りました。



透視度測定の様子

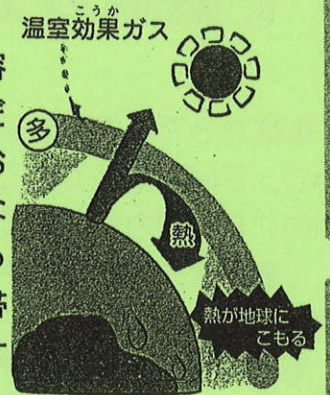


素朴な疑問解決コーナー

Q) どうしてCO₂(二酸化炭素)排出を減らさなければいけないの?

A) 私たちは快適な生活をするために、ガソリンや石油・ガスなどのエネルギーをたくさん使っています。CO₂(二酸化炭素)は森が酸素に変えてくれますが、その森も人間によって破壊され減少しつづけています。CO₂が大量に出ることによって熱の放出と保温のバランスがうまくつり合わなくなってきて、地球がどんどん暑くなってきています。

このまま気温が上昇すると、南極の氷が溶けさんご礁の島やいくつかの都市が沈んだり、海水の温度の上昇で生き物が絶滅するおそれがあります。また、台風やハリケーンなどが強大化し、洪水や高潮の被害が多くなったり、地域によっては砂漠化が進んだり熱帯地域の伝染病が流行することも考えられます



美しい郷づくり推進会議 新メンバー

会長 高野 節子

副会長 菅原 庄市

なの花循環線部会 菅原庄市(東根) 梅津一久(十王) 川部盛繁(鷹山)
熊坂勝則(十王) 石川重二(鮎貝)

環境出前講座部会 高山耀子(十王) 伊野幸男(十王) 芳賀繁男(荒砥)
小形清子(東根) 大滝鎮雄(鷹山) 大貫美智子(荒砥)

環境基本計画見直し部会 樋口金一郎(鮎貝) 菅原庄市(東根) 高橋武夫(蚕桑)
横山直広(荒砥) 小形清子(東根) 伊野幸男(十王)
中川みさ子(蚕桑)

環境ニュース部会 横山直広(荒砥) 高橋武夫(蚕桑) 熊坂勝則(十王)
山口伊都子(荒砥) 海老名文子(十王) 加藤仁美(蚕桑)

このメンバーで楽しくがんばります。2年間よろしくお願ひいたします。

☀ 環境こそもう一人の育ての母なり ☀

豊かさを享受する高度経済社会のなかで、地域及び社会的、教育的な様々な課題が山積されてきている昨今。放出する温室効果ガス(炭酸ガス)の増加による地球温暖化現象が新たに地球の危機的課題となりました。当然のことながら省エネ対策や自然環境保護・保全、教育再生等の試みが強く要請されるようになり、日本各地にその実践の輪が広がり始めてきています。

幼児施設では、幼児の生活の流れ全体が教育の場となり、幼児が触れる身の回りの環境すべてが生きた教材になります。このことから『環境から多くの教育を受けている』という『教育の原点』を知ることができます。この場合の環境とは、私たちに関わり影響を与える①人的環境であり、②物的環境であります。いわば、こうした環境は、私たちの生みの母・育ての母に対して、『もう一人の育ての母』とも言えるのではないのでしょうか。先進実践事例に学ぶことから始め、我が町の実践につなげましょう。『もう一人の育ての母』を失わないように……(たかはし)